

自然と同化する石橋の魅力



干などに刻まれた銘文が決め手になった。

＊

「切り出して積み上げられた石が、いつしか自然と同化して、趣のある景観を形作っている」。石橋の魅力をこう語る。

宮崎市内の食料品会社に勤

めながら、週末は九州を中心に各地の石橋を探訪する。人知れず歴史を刻んだ石橋を多数見いだしてきたことから、愛好家の間では「石橋ハンター」として名の知れた存



日本の石橋を守る会会員

にえだ たけかず 費田岳和さん 61 (宮崎市江平東町)

在だ。

＊

きっかけは2003年秋。大分県内町(現・宇佐市)を訪ねた際に「九州には1581の石橋がある」と書かれた看板を見た。もともと石像などに興味があり、老後に開く写真展のモチーフになるのでは、と考えた。

アーチが二つ連なった石橋はその形状から「眼鏡橋」と呼ばれ、同県中津市の耶馬溪をはじめ観光名所になっている所も多い。全国の石橋の9割以上が九州にあるとされ、宮崎県内にも江戸時代後期から1960年代にかけて築造された約170基が残る。

＊

鉄道のレンガ製アーチ橋を

含めると、これまでに全国の約7000基を巡った。

当初は写真に収めるだけで満足していたが、やがて、一般に知られていない石橋を探し求めるようになった。車には折りたたみ式の自転車や長靴、ロープを常備。同じ地域に足を延ばすにしても、できるだけ走ったことのない道を選び、気になる橋を見つけたら、河川敷に下りて調査する。

最大の発見は2007年。

佐賀市にある大覚寺の石造りの参道橋が、佐賀県内では最古となる江戸時代前期の寛文12年(1672年)の築造であることを突き止めた。橋の上面はコンクリートで舗装され、拡幅もされていたが、欄

残念なこともある。石橋が洪水被害で壊れたり、河川の改修工事で解体されたりすることだ。「再訪したときになくなっていると、さすがにがっかりしますね」
これらの石橋を、個人の力で保存に向かわせるのは難しい。多くの人に石橋の魅力をアピールして保存の機運を高めようと、全国の愛好家約120人でつくる「日本の石橋を守る会」に2005年に入会。会のホームページで撮影記録を紹介している。

「石橋は地震にも強く、メンテナンスさえすれば、半永久的に使うことができる。国内にあるすべての石橋をこの目で確かめて、新しい発見と合わせて書籍などの形でまとめたい」と話す。